

N°4 TEPPEI TAKEDA

Paintings of Painting

ペインティングのための
ペインティング

ポर्टレートというより、人間の形をした“宇宙”と形容したほうがよいかも知れない。膨大なエネルギーが一点に凝縮されたかのような、圧倒的なパワー。至ってシンプルな理由だが、それが画家・武田鉄平によるペインティングの魅力のひとつであることに疑いはないだろう。鑑賞する側を強引に絵画のフィールドに引きずり込み、芸術の意味を問うその力強さは、果たしてどこから来ているのか？ その秘密は展覧会タイトルにも紐づく独特な制作プロセスにあるようだ。制作にあたって、武田はまず満足いくものができるまで何十枚もの下絵を描く。そして彼が「絵」として認めた下絵は、本番のための下敷きになるのではなく、本番の絵の「主題」となる。つまり、自分の絵を主題にまた別の絵画を描くというプロセス。その自己のクリエイションの反復と相乗ともいえる過程が、武田のオリジナリティをより強く引き立たせているようだ。山形のアトリエで、ひっそりと10年以上にわたって絵を描き続けてきた作家は、2016年にやっと初個展を開催した。その会場は山形駅からほど近い「KUGURU」という多目的スペース。広報活動はほとんどされなかったが、その魅力は人から人へと伝わり、まったくの無名だった武田鉄平の名が広まるのにそう時間はかからなかった。それ以降初となる個展が、9月3日より東京・神宮前の「マホ・クボタ・ギャラリー」にて開催される。武田の引力を直に体感できるチャンスを逃さないようにしたい。

武田鉄平

1978年、山形県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。2001年、サイトウマコトデザイン室入社。2003年より独立。2005年に山形に帰郷し、東北芸術工科大学にて版画、木工を勉強。2013年より現在のコンセプトで絵画制作を開始し、2016年に個展「絵画と絵画、その絵画とその絵画」(KUGURU, 山形市)を開催。

ペインティングス・オブ・ペインティング

開催 9月3日~10月12日
 PLACE マホ・クボタ・ギャラリー
 ADDRESS 東京都渋谷区神宮前2-4-7 1F
 OPENING HOURS 12:00-19:00
 URL mahokubota.com



© Teppei Takeda / MAHO KUBOTA GALLERY

N°5 EMILY MAE SMITH | Avalon



Photographer: Chelsea Burton. Courtesy of the artist and Perrotin

私のアバターは“ホウキ”

擬人化したホウキが、メタリックのカーテンに少し硬めのベッド(?)という変わったシチュエーションで横たわっている。20年以上のキャリアを持つ画家エミリー・メイ・スミスが、ホウキという独自のモチーフに辿り着いたのは、2013年のことだという。以降、彼女の作品において執拗に繰り返されて描かれ、いつしか作家のシンボルにもなったホウキは、彼女自身のアバターである。その由来は、画家として必須用具である“筆”(=ホウキに似ている)であり、ディズニー映画「ファンタジア」に反逆のアイテムとして登場するホウキ、(旧来的な考えによると)女性の仕事に関連する家事用具としてのホウキ、または男根をも意味する。象徴主義やポップアートを参照しつつ、ジェンダーイシューや資本主義など、現代社会が抱える問題を、ホウキという形で自身の作品に取り込み昇華しているのだ。体温と妙な生々しさを感じさせる、絶妙なリアリズムとシュールレアリスムのバランスは彼女ならではの持ち味だといえよう。精巧に練られた構図や美しい陰影は、もちろん一朝一夕でできる業ではない。画家としてのたゆまぬ向上心とその過程での成熟が表れている。

アヴァロン

開催 8月26日~11月9日
 PLACE ペロタン東京
 ADDRESS 東京都港区六本木6-6-9 ビラミッドビル1F
 OPENING HOURS 11:00-19:00
 URL perrotin.com

Emily Mae Smith

エミリー・メイ・スミス 1979年、テキサス州オースティン生まれ。2002年、テキサス大学フライングアートコース学士課程卒業。2006年、コロンビア大学フライングアート修士課程卒業。現在はNYのブルックリンを拠点に活動する。主な個展開催場所に、「Consortium Museum」(フランス・デュジョン)と「Wadsworth Athenaeum Museum of Art」(アメリカ・コネチカット州ハートフォード)がある。